

富士山の麓で火山災害軽減ワークショップ 防災科研と山梨県環境科研が共催

火山災害の軽減を目指した「火山災害軽減の方策に関する国際ワークショップ」が9月24日から27日にかけて、筑波研究学園都市と山梨県富士吉田市で開かれました。防災科学技術研究所と山梨県環境科学研究所（山梨県富士吉田市）の共催で、海外から9名の講演者を招き開催しましたワークショップは24日はつくば市、26日は富士吉田市で行われ、両日とも火山研究者、地方自治体防災担当者など100名以上が参加しました。

ワークショップは、2000年三宅島噴火、1995年から続く中米モンセラット島の噴火、1991年に大噴

火したフィリピン・ピナツボ火山を事例に、火山防災と被害軽減のための取り組みなどがテーマ。実際に起きた噴火をもとに、災害状況や対応の問題点についての発表が行われ、科学者と危機管理担当者間の意思伝達についての討議、富士山の火山災害軽減のための動きについての議論も活発でした。今後の火山災害軽減のための研究の方向を探るために非常に役立つと期待されます。

また、25日には富士山周辺の巡検、27日には富士吉田市で富士山の火山災害軽減についての一般を対象にした講演会も併せて開催しました。



中米モンセラット島の火山災害について説明する英国地質調査所ペーター・ダンクレー博士

JICA研修生、2カ月半の 研修終え帰国

トルコ、コロンビア、ザンビアの3カ国から防災科研に来ていたJICA（国際協力事業団）の研修生5人が、11月27日に開かれた「研修報告発表会」を最後に帰国の途につきました。研修生の内訳はトルコが2人、コロンビアが2人、ザンビアが1人。9月中旬に来所、「都市域や自然河川における洪水流出の理解と予測」、「パソコンを用いた気象解析や数値実験の基礎」などの研究テーマに基づき約2ヶ月半の研修を終えました。



研修報告発表会には、受け入れ担当の研究員のほか防災科研などからたくさんの研究員も参加し、発表後のディスカッションでは、積極的な意見交換が行われました。研修生は、研修で得た情報・知識を自国での研究に役立てたいと意気込んで帰国しました。

フィリピンでの既存住宅 の破壊実験実施中

地球フロンティア研究センターが、フィリピン・マニラ首都圏のマリキナ市で、一般市民が使用している普通の住宅の実大破壊実験に取り組んでいます。実験は10月から破壊実験に使う住宅建設などの準備をしており、11月に行った最初の実験から2004年1月にかけて3段階に分けて行う予定です。

この実験の目的は、フィリピンで普及している「わくく そせきぞう 枠組み組積造」構法で建てられた住宅を引っ張って壊し、破壊に至る過程を詳しく調べ、地震に強い



住宅づくりに必要なデータを取得することです。このプロジェクトで開発された設計・施工方法は、マリキナ市を始めとするフィリピンの関係機関並びにインターネットを通して世界に向かって発信されます。写真は、11月25日に行われた、第1回目の実験の様子です。



—雪国で冷夏に思う 災害防止と気候、人の行動—

昨年、東北地方は10年ぶりの冷夏となりました。とくに太平洋側では、低温と日照不足でお米のできも良くありませんでした。しかし、この冷夏の原因となった冷たい北東の風は、東北地方の真ん中に連なる奥羽山脈にさえぎられます。そのため、日本海側のお米のできはあまり悪くならずにすみました。

新庄支所のある山形県では、お米のほかに果物の栽培も盛んで、初夏のサクランボ、夏のスイカやメロン、秋のブドウやリンゴなど、季節の味を楽しむことができます。地元の生産者に聞



冷夏にもかかわらず豊かに実ったリンゴと初雪をいただいた鳥海山
(新庄市郊外の果樹園にて)

いたところ、「スイカのでぎ(でき)はまずまずだったども(まずまずだったけれども)、夏らしくね(らしくない)天気であまり売れねがった(売れなかった)」とのこと、また「涼しい気候が好きな(好きな)リンゴにはあまり冷夏の影響はねがった(なかった)」とのことです。

私たちの生活への影響はどうだったのでしょうか?夏用衣料や冷房機器はあまり売れなかったそうです。

私たちが生きていく上で衣食住はたいへん大事です。それぞれの土地と天候にあった衣食住が工夫されていますが、昨年の冷夏のように予想以上の天候の変化があると、人間の生活や動植物にいろいろな影響が現れることがわかりました。新庄支所では、雪による災害を防ぐための研究を行っていますが、災害が発生するかどうかを予測する場合も、自然の変化や人間がどう行動するかを考えなければなりません。そんなことをあらためて感じさせてくれる昨年の冷夏でした。

さて、夏と冬の気候にはあまり関係がなさそうですが、この冬はどうなるのでしょうか。これが雪国に暮らす人々の目下の関心事です。

編集・発行／ 独立行政法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 ☎029-851-1611(代)

企画課直通 ☎029-863-7789 Fax.029-851-1622

E-mail ◆plansec@bosai.go.jp インターネット ◆http://www.bosai.go.jp

発行日／2004.2.1